
愛しい闇に...

紅兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛しい闇に…

【Nコード】

N8907X

【作者名】

紅兎

【あらすじ】

ヴァンパイアと人間の血を持つ銀髪の少女・月夜は、満月の夜に、ある青年に出会う。

彼の姿は月夜の愛した男・キルアと瓜二つであった。

そんな彼をキルアと重ね、月夜は…？。

プロローグ

「今日の月も美しい…。」

少女は銀色の髪を、風になびかせながら立っていた。

…紅い海の中で。

目をつぶると、なにも感じない、黒い世界が広がっていた。
今では もう 心地よくなり、唯一の少女の居場所だった。

「…。」

少女は誰かの名を呼ぶ。

（ねえ…どこにいるの？）

「…。」

優しい彼の笑顔が浮かぶ。

そして、彼の声が聞こえた気がした。

一滴の涙が落ちた。

―満月の夜、人形は舞っていた。

人形は人であり、美しきヴァンパイアであった。その力は、理性
身体 精神までも紅く、闇のように黒く、染めきってしまった。

血は満月の夜に、人形を狂わし、人形は血を欲し愛していた。

（…暗い。何も感じない。わからない。）

私は…どこ？

（私は…。）

少女は闇の中にいた。

（貴方はどこ？ 私の心はどこにあるの？）

（ねえ、答えてよ…）

「私を一人にしないでよ！！」

その瞬間、闇の中で何かが光った。

「…！」

少女は目覚めた。いつもと同じ、満月の夜。紅い海の中に立っていた。

だけど、ちがう。

白い光が…。誰かが近づいてくる。

（誰…？ 誰なの？）

少女は 目をこらした。

（…！！。 う そ…嘘 でしょ…。）

少女の目に映ったのは、月光をまとった
愛しい彼。

血が騒ぎ 人形が少女の中で暴れだす。
息が上がる。

彼は何かをいい。私に近づく。

お願い…こないで…。

私の言葉も届かず、彼は手の届くところまで来ていた。

「あ…。」

紅い涙が溢れた。

少女は人形と共に崩れ、闇へと落ちていく。

（嫌……。消えないで……。）

少女は落ちていく。紅き雫と共に落ちていく。

声が聞こえた。

「
…逢いたかった。」

少女は 闇で 静かに眠った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8907x/>

愛しい闇に...

2011年11月16日19時17分発行